

私は、男性の育休取得を促進することに、2つの価値があると考える。

第一に、少子高齢社会の進行の緩和と男女共同参画社会の実現だ。日本では、「男性は仕事、女性は家事」という価値観が根強い。子どもを持つ女性が仕事をする場合、仕事、育児、家事をこなすストレスや不安から育児放棄や虐待につながったというニュースをしばしば目にする。男性が育児や家事に積極的に参加すれば、女性の負担が減り、長期的には子どもを育てやすい環境ができあがる。また、それは個人の能力を活かせる社会への一歩となるだろう。

第二に、新しい人生観を生み出す可能性だ。日本では、家族の形態が、一般的な法律婚に加えて、事実婚、週末婚、別居婚、同性婚など多様化し、部分的には法律上の制度として認める動きがある。働き方も、新型コロナウイルスの影響によるテレワークの普及で、「自宅で仕事」が当たり前になりつつある。

この状況下で男性の育児取得が進めば、最終的には、家族の中で「誰が育児、仕事、家事をしてもよい」という価値観が広まれ、より多様な家族の形態、さらには新しい人生観を生み出すことにつながるのではないだろうか。

大きな視点で見ると、価値観や人生観を多様化させるのは、人類が身につけてきた、苦境を生き延びるための知恵だ。コロナ禍で将来に対する不安が広がる中、男性の育児休業の取得の増加は人々がより暮らしやすい方向に日本の社会を変化させていくと私は考えている。